

歯科医ジョン・ヘンリー・ホリデーの数奇な生涯

(O.K. 牧場の決闘・ドック・ホリデー)

大 前 義 文*

はしがき

O.K. 牧場の決闘は、西部劇のなかでも最も有名なものの一つで、その主人公ドック・ホリデーの名を知っている人は多いけれども、ホリデーが歯科医師である以外には余り知られてない。たまたま J.A.D.A. の1973年8月号 (p. 250~256) に Dr. Joseph W. Looper がホリデーの O.K. 牧場の決闘のいきさつは勿論、彼の誕生から死に至るまで、こくめいに調査し、報告しているのをみたが、単に西部のガンマンの生涯だけではなく、当時の歯科事情なども間接的に推測できて、興味があると思ったので、以下同博士の調査報告を翻訳紹介する。

序 章

コロラド州のグレンウッド スプリングにある赤い丘の頂きに向って、南ジョージアの松林と沼沢地の間を通ずる長い小道がある。この小道のつきとところに墓地があって、そこに次のような文字を誌した一基の墓碑がみられる。

「ジョン・ホリデー D.D.S, は1852年ジョージア州バルドスタに生れ、1872年20歳の時バルチモア歯科医学校¹⁾を卒業、最も偉大なギャンブラー²⁾であり、西部における6連発早撃ちの名人の1人であった。彼は銃弾で斃されたのではなく、1887年11月8日コロラド州グレンウッド・スプリングのサナトリウムにおいて肺結核のため死去した時、生涯で最も大きな賭に負けたというべきである」。

この地は、西部切って景勝の地であり、又平和で美しい環境にある。南に向ってフライング・パン河の峡谷があり、北西に向ってコロラド河が曲りくねりながら山を貫いて海へ向い、その兩岸はグレンウッドの峡谷を形成していて、1,000フィート³⁾に近い断崖になっている。この静かな桃源郷のような平和な眺望が、西部切ってのガンファイター⁴⁾であり、ギャンブラーであり、同時に



図1 J.H. (Doc) Hollday

1880年代の初め頃(30歳前後)のもので、西部に名を知られ始めた頃のものである。

又ジョージア州で誰知らぬ者もない程、有名な一人の歯科医が永遠の眠りに就くところであるのは、何か皮肉なものさえ感じられるのである。

ジョージア州生れのこのジョン・ホリデーについては、事実と、最早や伝説となった話などが一緒にたにされて、沢山の本が書かれて来た。彼は悲哀と、挫折感と、病氣と、失意と、そして彼の背負った宿命を通じて「若き南部の紳士」から、アリゾナよりダコタに至る広大な地域に渉り、死のガンマンであると共にギャンブラーとして、人々から恐怖されるまでに変身していったのである。

西部の広野で恐らく30人以上の人を殺したこの男、有名な早打ちの名人である保安官のこの友人、伊達な服を

The colorful life of Dentist, John Henry Holiday
(gunfight at O.K. Corral-Doc, Holiday)

* Yoshibumi ŌMAE 岐阜歯科大学

着てまき舌連中の仲間であるこの男、ギャンブラーだと当時の新聞に書かれていた、このジョージ・ジャ生れの歯科医師とはどんな男だったのだろうか。ジョン・ホリデーがどんな人間だったかについて、ワイアット・アープはこう言っている。「ドックはやむにやまれずに歯科医師からギャンブラーになったのであって、死の影が広野の放浪者にしてしまったが、元々彼は紳士だった。又毎日の生活が機智縦横の才人に仕上げてしまった哲学者であり、肺病を病んで死にかけている、長い灰色がかったブロンドの髪が額にたれかかった顔の男であると同時に、銃をとらせれば、私がかつて見た男の中で、最も冷静で、最も早打ちの、最も物凄いい男だった」と。

南部の紳士

ジョン・ヘンリー・ホリデーは1851年8月14日ジョージア州のスポールディング郡グリフィンで生れた。(墓碑に誌されていることは誤りである)。グリフィンのファースト・プレスビテリアン教会の洗礼名簿には、1852年3月21日に洗礼を受けたと記されている。彼の誕生日については、ホリデーの家庭用聖書⁵⁾が現存するのを、最近筆者⁶⁾が発見したのでまちがいはない。

ジョージア州のこの地方は、シャーマン将軍⁷⁾の進撃によって破壊され、住民達を貧困のどん底へ追い込んだのである。ジョンの父ヘンリー・B・ホリデー少佐のような名望家の生活も「風と共に去りぬ⁸⁾」と言われるように、南部連合軍退役軍人にとって一番の良策は、争いを避けて、他の土地に移住することであった。そこでホリデー家もグリフィンを後にして、南ジョージアの新しい町バルドスタへ移住したのである。この時ジョンは13歳位であった。ラウンディス郡の記録は、父ホリデー少佐が1864年11月に5区画⁹⁾の土地を購入したことを明らかにしている。ラウンディス郡の郷土史家はホリデー家が、この土地で生計を立て、バルドスタのサバナナ通りに住んでいたと言っている。ホリデー少佐は銀行から信用貸を受けてペカン¹⁰⁾事業を始めた。バルドスタのその通りの名称は彼の名にちなんで命名されたし、又後にはその町の市長に就任して市民に恩返しをしている。

若き日のジョンは、市民のうちの著名人の子息にふさわしく優雅な行儀作法を仕込まれたらしい。しかし彼の人間形成に最も大切な少年時代を、彼の父が南部連合陸軍に勤務していたため、直接父の薫陶を受けることができなかった。その結果として、南軍の敗北による南部人の冷遇、南部諸州の合衆国再統合(1867~77)による圧政、バルドスタに駐屯する北部占領軍の無道な言動等々、すべてが南部人の若い世代に与えた影響は深刻であ

った。

ジョンは元々ひ弱いたちで、人と争うようなことのできる少年ではなかった。彼は背の高さが5フィート10インチ¹¹⁾で、やせっぽちだった。このやせ型で軽量だったことが、後年ガンファイターとしての彼を大いに有利にしたのである。それは兎も角、或る夏の日のこと、彼が数人の友達と共に水泳を楽しんでいたところへ、占領軍の兵隊達がやって来て、水泳場所を取上げ追払おうとしたので喧嘩になり、死物狂いで斗ったけれども、体力の差は如何ともなし難く、彼は散々に叩きのめされたのである。彼が暴力に物を言わせ横車を押す連中に対して、終生憎しみを持ったのは、この事件が原因であろうと思われる。彼が優雅な物腰のなかに、火の様に激しいもの秘めていたことは、彼の数多い銃を取って決斗した話の中で明らかにされたが、又この時に鉛の散弾を込めた大形ショットガン¹²⁾で北軍の占領兵士達を苦しめ復讐した時からのことであろうと思う。この間のことは、この事件を詳しく調べて説明できるけれども、しかしこの事件後ジョンの父が彼をバルチモアの歯科医学校へ行かせることにきめたことにも、いくらかの原因があったのではないとも言われている。兎に角、ジョン・ホリデーは1870年に歯科を学ぶためバルチモアへ行ったのである。

この「若き反逆者」の人間形成に影響を与えたもう一つの要因は、1866年に彼の母が死んだことと、死後間もなく彼の父が再婚したことであったと思われる。ジョンは彼の従妹に当たるマッチイ・ホリデーと恋中であって、彼が歯科医学校を卒業して帰って来た暁には、結婚する約束をしていたと言われている。たとえ彼が後年到る処で女友達を持ったとしても、終生変わらず彼の真の恋人であったのは、マッチイの外にはなかったことが、彼が遺した手紙によってよく解るのである。

父の再婚以後の落ちつかない焦燥感と少しばかりの孤独感が、ジョンをバルチモア歯科医学校で歯科を学ぶためにメリーランドへ行かせ、そしてそこで20歳を迎えたのである。首尾よく2年の課程を終えて、彼は開業するためにアトランタ市へ帰って来た。この時、彼はD.D.S.の学位の外に、肺結核とギャンブルと飲酒の習慣を身につけていたのである。

若き歯科医師

W.E. コールマン博士の「ジョージア州歯科医史」には、彼が帰郷した年である1872年にジョージア州歯科医師会新会員として、ジョン・ホリデーの名を名簿に載せていない。しかし1872年7月26日のアトランタ・コ

ンティチューション紙には次の様な記事が載っている。

「A. C. フォード博士は歯科会議¹³⁾に出席するためリッチモンドへ出発した。彼の留守中は J. H. ホリデー博士が代わって診療するであろう」と。ちなみにこの頃既に卒後教育が重要視されていたのである。

フォード医師のその頃の名刺にも、新しい広告を次の様に記載している。

「患者各位へ次のことを謹告します。今回小生はヴァージニア州リッチモンド市で開催される南部地区歯科医師会主催の研修会に出席することになりましたので、8月中旬頃まで留守になりますが、その間は、ジョン・H・ホリデー医師が私の代わりに診療致します。

アーサー・C・フォード, D. D. S., 診療所
ホワイト ホール ストリート 26」

フォード医師は、当時アトランタ市で秀れた腕を持った歯科医師であった。後年彼はジョージア州歯科医師会長にもなったが、ラバーダム使用の臨床教育(実習)については屈指の人であり、又ジョージア州の小児歯科の臨床に限って言えば第一人者であった。

彼は弟子に対し大へんきびしく又多くを要求する型の人物であったが、反面大へん親切であって、1873年ホリデーにジョージア州グリフィンで開業するのがよいと助言したのであった。調査し得た限りでは、少なくともアトランタ市にホリデーは自分の診療所を持たなかったのは明らかである。

その頃のアトランタ市は、未だシャーマン将軍の占領後間もない頃で、破壊後の再建に懸命になっていた。その上1872年に始まった経済恐慌¹⁴⁾によって、社会情勢は更に深刻になっていた。そんなことと同時に健康上の理由で、ドクターホリデーは生れ故郷のグリフィンへ帰る決心をしたのであった。

グリフィンでソロモン・アンド・ステート¹⁵⁾の南西隅に彼は診療所を建てたのであるが、その建物は現在も残っている。「若き歯科医」は漸く静かな生活に入り、体をいたわりながら、悩んだり或いは将来のことをゆっくり考えることができるようになったのである。ところがちょうどその頃、彼の主治医は、死期がそう長くない将来に彼を訪れるであろうことや、乾いた気候の地方へ転地療養するならば、幾分死期を引き延ばすことができることを話したのである。ここで彼は自分の腕にマッチイを迎えることが不可能であることを悟った。彼の性格として、マッチイを不幸にまき込むような結婚は出来なかったし、さりとて彼女を目前にしてそのまま死を待つことも出来なかった。賭博生活によって、すっかり健康を

そこねていたこともあって、ホリデーは歯科用医療器具をトランクに詰め込むと、飄然として彼の悪名と不朽の名を残した西部の広野へ馬を走らせ去って行ったのである。南北戦争敗北後の南部諸州の少年の多くの様に、彼も G. T. T. 即ち「テキサスへ去りぬ」(Gone To Texas)の1人となって、テキサスめざして故郷を捨てたのである。

テキサス, コロラド, そしてダッチ, シティー

1873年ホリデーがダラス市¹⁶⁾(テキサス州)に着いた時には、未だ歯科医師からガンマンへの変質が充分出来ていたとは言えない。しかしながら、月日の経つにつれて、ドックは歯科診療に従事することが少なくなって、賭博(ギャンブル)にふける方が多くなっていった。西部開拓者達¹⁷⁾の中で行う歯科診療と賭博の間には、共通する何かがあった。それはどちらも大へん危険だということであった¹⁸⁾。苦痛を与えること或いはだまし取ることの何れにしても散々口論の後、結着をつけるものは45口径ピストルの銃口であった。ドックはこのきびしい現実直面し、銃にナイフ、何れを取っても名人になったのである。或る日、彼のおこなった歯科治療に腹を立てたカウボーイの悪口雑言から喧嘩に発展したが、解決に余り時間はかからなかった。銃の撃ち合いからカウボーイの死によってけりがついたからである。そこでドックはダラスからテキサス州の他の牛の町へ流れて行くことになるのである。彼の憂愁と自己嫌悪の気質は、西部の広野の酒場でウイスキーをあおり、カード賭博をする生活の中に完全に溶け込んでいった。テキサスは何処へ行っても、悪ふざけと負けっぶりの悪い男で一杯であった。その上彼等の殆んどが武装していて、何時でもその武器を使う用意ができていたのである。その頃には既にドックは拳銃使い一賭博師にとっては大切な財産である一としての名が高かった。彼はカードを配る指と同じ位敏捷に引金を引く指を持っていたのである。従って、彼にはったりをかけたりますと、ひどい目にあわされるのがおちであった。

暫くの間、ドックホリデーはテキサスのたちの悪い拳銃使いという名が高かった。彼に取って、金儲けは余り重要ではなかった。彼は死の影とマッチイの思い出につきまといながら、その日その日を生き、それらの影を忘れようと努力しながら、遂に成功しなかったのである。当時の事を知っている人の話に、彼が街で遊んでいる腕白少年共に、儲けた金を分けてやっているのを何度も見掛けたということである。何れにせよドックは、ギャンブルで喧嘩になった相手を、思い掛けず殺してしま

ったので、テキサスからコロラドへ逃げる方法を考えついたのである。

1876年彼がデンバー（コロラド州）へ着いた時には、母方の姓を使ってトム・マッキーと変名していた。そしてゴールドラッシュに沸き立つ町々セントラルシティ、リードヴィレ、アイダホスプリングへ出掛けるようになった。デンバーで法に触れるような事件を起した時には、彼は南ダコタ州のデッドウッドや、ワイオミング州のチェインネへ逃げ出したが、しかしこれらの町で、彼がどんな事をしていたかは少しも話が残っていないので解らないが、結局は又テキサスのフォードグリフィンへ舞い戻って来たのである。そしてここで1878年ワイアット・アープとの宿命的な出会いがあったのである。

アープとホリデーは初対面の時から意気投合した。それはお互いに相手を尊敬し合うという一事例であったと言うべきであろう。2人は、何れ劣らず大胆不敵であり、剛勇の士であることを認め合ったのである。恐らく双方夫々に違った理由からであっただろうけれど、アープは危険の中へ飛び込んで行くのが楽しい男だったし、ドックの大胆さは多分に彼の宿命論的なものから生れたものであったから、何れにせよ、二人は堅い友情に結ばれ、一緒に組んでギャンブルをやり、その結果賭博台上でのこの上ないよき相棒になったのである。後年、アープは、ドックが拳銃使いとしての名声を揺ぎないものにしたのは、この時期だったと証言している。

アープはカンサス州ダッジシティの合衆国副保安官¹⁹⁾になって、ドックを呼んだのであるが、それは大鼻ケート²⁰⁾の兄がフォートグリフィンを脱獄するのを助けた情

婦を、彼等のダッジシティにいる仲間の中に見付けたからだろうと思う。

ドックはダッジシティ²¹⁾で歯科の看板を掲げて、歯科診療をしようとしていたということである。そこでドックがやくざな生活を送っていたというような記録は何もなく、反ってアープが彼の暮しが立つように、ホリデーのために銀行から金を借りてやっている記録が残っている。ドックの肺病と深酒は一層ひどくなっていたが、ギャンブルは一段と進歩していた。その頃彼とケートはアープと一緒にアリゾナのトゥムストーンへ旅行したが、ドックはその時鞍袋に6万ドルも持っていたと言われて

トゥムストーンと O.K. 牧場

アリゾナの東南部、銀鉱の町トゥムストーンは、歴史上有名な国境線²²⁾が近くにあるが、今日訪れる人々には100年昔ドックとケートが馬を乗り入れた頃を偲ぶものは何も残っていない。当時の市民簿²³⁾は昔ヨーロッパにあった紳士録に似たものだった。トゥムストーンの歴史は又アープ兄弟—ワイアット・ヴァーゼル及びモーガン—ビリー・ブリッケンリッジ、テキサス・ジャック ヴァーミリオン・シャーマン・マクマスターズ、ジョージ・パーソン、バット・マスターソン、リューク・ショート及びエディ・フォイの様な馬に乗った連中の出入りした歴史でもある。この町には又ジョニー・リンゴ、カーリー・ビル・ブロシウス、アイケ及びビリー・クラントン兄弟、フランク及びトム・マクロリー兄弟、バックスキンス・フランク・レスリー、ジョニー・タイラー、ビート・スペンスの様に、鉱山労働者や牧場経営者を喰



図 2

コロラドのグレンウッド・スプリングの「赤い丘」の頂きにあるホリデーの墓碑

い物にする人間の屑みたいな連中も大勢いたのである。

1880年ドック・ホリデーと大鼻ケートがそこへやって来た時、トゥムストーンの町の支配権をめぐる、二つに分かれた党派が争奪戦をしている最中だった。一方は市長ジョン・クラムに率いられる共和党で、アーブやアーブの長兄ヴァージルが支持していた。他の一派は保安官ジョン・ビーアンを首領にした民主党で、これと手を組んだ連中には、はっきり悪漢と呼ばれていた凶悪な連中が多数いたのである。暫らくは、ドックとアーブも、ギャングから上のトゥムストーンの収入を、ビーアン保安官一派のあぶれ者から防衛するに努めた。しかし、これらのごろつき共は、いくら町から追っばらい或いは拘置所へほうり込んで、すぐ帰って来て事件を起すのをやめなかったのである。

O.K. 牧場の宿命的な決斗の時、悪党共の逮捕、脱獄、銃の乱射、そして善良な市民を脅迫するに至って遂に爆発点に達した。牛泥棒で駄馬車強盗だと言われていたアイケ及びビリーのクラントン兄弟と勤勉なカウボーイを装いながら、動静が怪しいトム及びフランクのマクロリー兄弟が敵側であり、ヴァージル・アーブとその弟モーガン及びアーブそれにドック・ホリデーがこれに相対したのである。

1881年10月20日の昼下り、ほんの数分間にすぎなかったが、ホリデーとアーブ兄弟は、クラントンやマクロリー達との決斗に向うため、フリマント通りへ降り立った。彼等がO.K. 牧場の入口に近づいた時、ヴァージルはクラントンやマクロリー達の姿を見付けたので、両手を挙げて出て来るよう命じた。銃の撃ち合いが始まった。しかしそれはほんの30秒位で終わった。あとには3人の男の死体ごろがっていた—マクロリー兄弟とビリー・クラントンである。アイケ・クラントンは逃亡していた。ヴァージルとモーガンのアーブの兄二人は負傷していた。それからドック・ホリデーは上衣の数カ所を撃ち抜かれていた。ワイアット・アーブは全然無傷であった。その後、アーブとドックの2人は殺人罪に問われて逮捕され、ビーアン拘置所に監禁されたが、保釈金を積んで釈放され、最終的には無罪になった。

しかし宿怨は尾を引いた。1881年のクリスマス後しばらくたっての或る日、長兄ヴァージル・アーブは待ち伏せに逢って生涯不具にされてしまった。翌年3月には、次兄モーガンが、或る賭博場で殺された。その遺体を引取るために、ドックとアーブが列車でカリフォルニアへ行こうとした時、停車場で待ち伏せされた。撃ち合いの結果、待ち伏せした1人、フランク・スチルウェルが倒

された。

ドックとワイアットは、或る新聞記者が、「復讐の小道」と名付けた道を馬でトゥムストーンへ帰って来た。フロレンチノ・クルス、カーレイ・ビル・ブロンクス、ジョン・リンゴや恐らくその他一味のならず者達も、2人が帰って来るまでに結局はコロラドへ逃亡する外なかったのである。

グレンウッドスプリングへの小路

デンバー（コロラド州）へ帰って来たドックは、新聞が彼の行為を正当なものであると極力擁護したにも拘らず、警察に逮捕され、人々の関心を集めることになった。或る刑事巡査²⁴⁾が事件をむし返したのである。この刑事巡査というのが、裏を返せば、ジョニー・タイラーの兄であって、トゥムストーンで名を挙げたドックに恥をかかせようと謀ったものであった。

彼はデンバーで拘置されていた間に、色々な新聞の記者とのインタビューに応じた。一例として、1882年5月22日付デンバー・リパブリカン紙の記事を利用すれば、次の如く報じている。

「ホリデーは拳銃使いとして大きな名声を博していて、恐らく多数の牛泥棒共を追っばらってくれたし、西部広野のどんな男よりもカウボーイらしいカウボーイだった。彼はアリゾナの無法者共に取って恐怖のまゝであったし、又アーブと共にアリゾナと言えば悪が横行する処という嫌な響きを、善良な人々に与えていたのであるが、その根源を作っていた残忍で、どんな悪事でも平気で働く暴力集団に対して、真正面から立向って行くに充分な勇気を持ち合せている唯一の人物と言ってもよかったのである。」

この様に、新聞記者はホリデーの平素の挙動に最高の讃辞を呈しているのであるが、それは拳銃使いという一般に受けるイメージとはおよそかけ離れたものであった。

「ホリデーはやせ型の人で、背は5呎10吋位（アーブがそう言っている）で、体重は150ポンド²⁶⁾位だった。顔は面長で、灰色の髪が物憂く額にたれかかっている。よくととのった容貌をしていて、人相について全く無知な人でも見まちがえることのない様な、強い決断力を示す鋭い目を除けば、特に目立った特徴は何もなかった。彼の手は小さくて女性の様に柔らかであったが、彼のして来た仕事は、女性のする仕事以外の事、言い換れば男の仕事なら何でもしたと言える。カードを配る繊細な人差し指は、カードを配る時と同じ位の熟練とすばしこさで、多数の牛泥棒達に死を配ったのである。加えて華奢

な手首は、6連発銃早撃ちが万事を決する場合、数え切れない位数多くの激しい銃撃遭遇戦に鋼の様に強靱な筋肉を持っていることを証明した。平素ホリデーはカラフルなリネンのシャツに、黒い服をきちんと着こなしていたが、人と話しをする時、特にきわ立って見えることは、彼が物静かに話すことと優雅な物腰とであった。」

インタビューの際、ドックは次のように話した。「人殺し、駅馬車強盗、それに彼が牛泥棒と呼んだ泥棒共は、すべて東部の法網をくぐって逃げて来た連中で、西部の善良な住民を恐怖させていたのだ。カーリー・ビルが保安官²⁷⁾ホワイトを殺害したのが、奴等の犯罪の手はじめだった」と。

牛泥棒一味はドックをひどく憎悪していたので、彼のアリゾナへ帰って来ることは、確実に彼の最後を意味するものであった。「コチーズ (Cochise) 地方²⁸⁾」の保安官ジョン・ペーアンは奴等悪党共一味の一人であって、私に取って執念深い敵だった。それで奴(やつ)は私を殺させる為め、殺し屋共に相当な金を渡していたのに違いない。彼奴(あいつ)がモーガン・アープ殺しを唆したことはまず間違いない。若し彼奴が自分の権限内で私を逮捕していたなら、恐らく簡単に私を殺していただろうと思う」と。

それでも敢えてドックがでかけて行ったのは、いずれ彼をトゥムストーンへ引き取ることになる保安官のボブ・ポールを信頼していたからである。彼は次の様に話した。「私には身の安全を計るチャンスが一つだけあった。それはトゥムストーンへ絶対行かないことだ。そこ

へ行けば脱獄を計ったことにされて、適当に殺されてしまっただけだ。こんな盗人共に吊されるよりは、未だその方がましだったかも知れないが」と。

彼を助けるために友人達を呼び集めてはどうかとたずねた時、彼は答えた。「そうだ、そうすれば尊敬するに値する人々が助けに来てくれるだろう。しかし彼らは皆脅迫されているし、又組織されてもいない。だから善良な市民が何のいわれもないのに、何人かが殺されるまでは手を出さないだろうし、そうなった時初めて立ち上がり、悪人共を追っばらうことになるだろう」と。

彼を逮捕したマランというのは、どんな人物かと記者が質問したのに対して、ドックは次の様に答えた。「マランについて一つだけ言えることは、彼は悪事を見て見ぬふりをしていたということだ。彼は君の新聞にカーリー・ビル(ブロンクス)が殺された時、彼の側にずっと一緒にいたと言っている」と。そこでドックは、カーリー・ビルの死が無法律者8人の一団との撃ち合いの間に起ったものであることを詳しく話してくれた。

「8人の牛泥棒共が急に堤の後から現われて、30、40発の銃弾を我々に浴びせて来た。これを何んとか逃がれたのは全く不思議な位だ。銃弾は我々の服をつらぬき、鞍に当たり、一頭の馬を斃した。しかし遂に我々に命中しなかった。全能なる神の加護がなかったなら、我々は皆殺しにされていただろう。ウィアット・アープはショットガンでのがれ、カーリー・ビルを斃したのだ。我々を襲った8人の集団は、いずれ劣らぬ無法律者ばかりだった。それにこれらの連中は皆謝礼をしこたま貰っていた

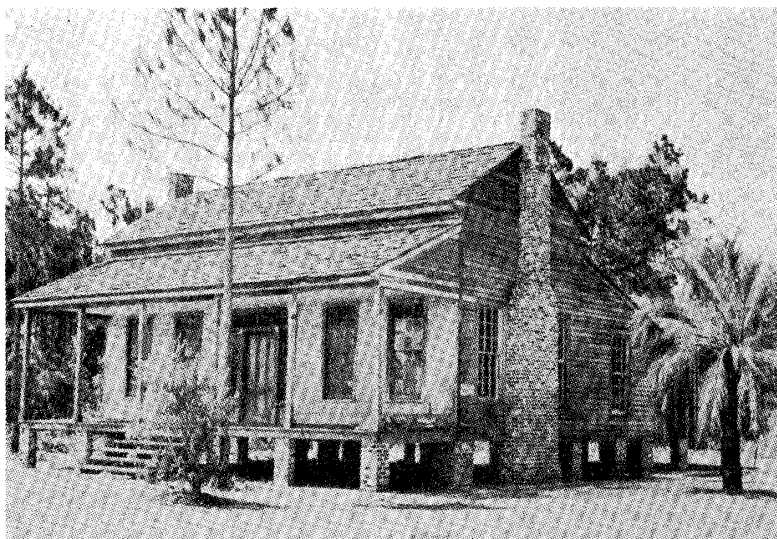


図 3

ホリデーの生家。ジョージア州バルドスタ市サバンナ通りにある。1972年町の南へ移転されたが、その後再び旧に帰し、修理復元して保存されている。

のだ……。若しマランがカーリー・ビルの斃された時に、彼と一緒にいたと言うのであれば、マランは国中でも一番悪質な殺し屋であり強盗である仲間の一人と一緒にいたということになる」と。

ドックが記者のインタビューで話したことや書いたものは、後日ワイアット・アープその他によって詳細に確認されたのであるが、彼の話した事に嘘は一つもなかった。

この頃、アープは警察の手をのがれて、未だコロラドのガニソン河地方²⁹⁾を転々としていたが、ドックとワイアットの間に、少々意見の相違があった様である。しかしそれは、ドックの言葉を借りれば、「大したことはなかった」らしい。

ドックの引渡しを受けてその護送に当たったボブ・ポールは、1882年3月22日付ロッキー・マウンティン・ニュース紙の記事によれば、記者のインタビューに応じて、ドックがアープの仲間だったのかとたずねられた時、次の様に答えている。「そうだ、その通りだし、又場合によってはリーダーでもあった。いわゆるアープ一味或いは徒党の連中は、遠慮なく言えば、カウボーイ達を喰い物にする賭博師共をうまくまとめると同時に、正当な仕事であることを示すため一種の自警団に組織し、ドックを含む彼等の或る者は合衆国保安官の権限さえ持っていた」と。

ポールは又ホリデーが無法律者として尊敬されていたのかとたずねられた。「如何なる理由からそんなことはあり得ない。彼は強い力を持っていたがいつも礼儀正しく、無事平穏を望んでいた。彼が配下をつれて自警の仕事をする時は、正しい結末をつけるよう努力をして、アリゾナの犯罪を犯す連中を恐れさせたものだ」。

アープは一度も逮捕されることなく終った。そしてO. K. 牧場におけるドックの事件の結着を、1882年5月20日水曜日のロッキーマウンティン・ニュース紙は次の通り報じている。

「ドック・ホリデーの事件に対し遂に昨日ピトキン知事の裁断が下された。知事閣下はアリゾナからの引渡要求には応じられないと裁決した。地方検事局の代表は副検事兼州議会議員の I. E. パーナムであったが、彼が知事を訪れた時、副保安官リントンと保安官ポールを同伴していた。その他の出席者の中にはティニダッド³⁰⁾の副保安官バット・マスターソンやホリデーの友人数名も居合せた」と。

グレンウッドへの足跡のあらまし

釈放された後のドックは、再びデンバーやその他景気

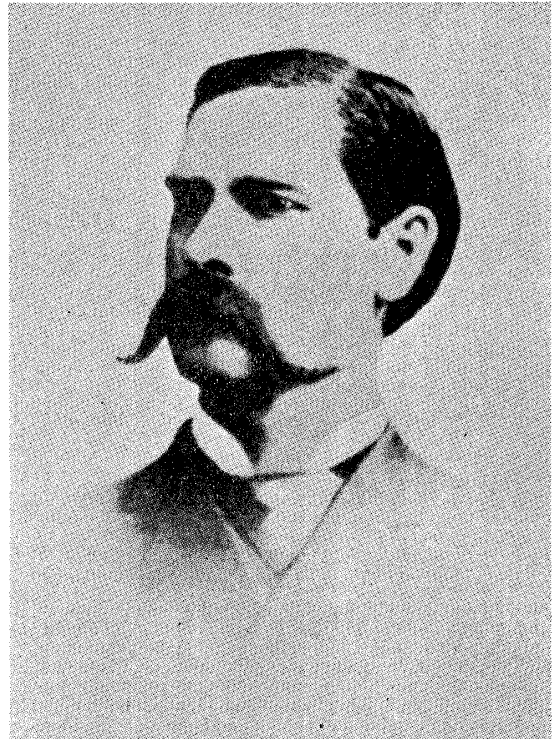


図 4

ワイアット・アープの写真で、1886年に撮ったものである。

のよいコロラドの町々をめぐる賭博生活に戻った。しかし彼の選んだ職業（歯科医師）が、又もや事件の中へ彼をまき込むことになるのである。

「冬が9カ月で、3カ月が晩秋」と誇大に広告された銀鉱の町リードヴィレ³¹⁾へ、ドックは歯科診療をするためにやって来た。リードヴィレは海拔1万フィート以上（3000米）の所にあつて、その気候は結核患者にとって、決してよいものではなかった。しかしながらドックに取っては単に気候が健康に悪いというだけで済まなかったのである。彼が町へ到着した時、昔トゥムストーンにいた時以来の讐敵、ジョニー・タイラーが町のある酒場でフェロー（一種の賭トランプ³²⁾）を開帳していたのである。

これらの讐敵との間に忽ち憎悪が再燃した。そしてドックが、インチキをした相手にトランプの持ち札全部を見せろと言った時、撃ち合いが初まり、タイラーの腹心の一人を傷つけたのである。ドックは取調べを受けたが正当防衛で無罪になった。しかし、元々取調べを受けたということ自体が、その場にタイラーの仲間が居合せたので、そうなったのだらうと推測されるのである。

ホリデーは依然としてギャンブルを続けていたし、又確かにアル中になっていた。新聞の伝える処によると、

彼は毎日3クォート³³⁾の酒を飲んだ由である。堪え難い
わびしさに加えて、この頃彼は愛するマッチイがアトラ
ンタ市の或る慈善団体のメンバー³⁴⁾に加わったという知
らせを聞いたのである。断えず死の影につきまとい、
肺病で死ぬ前に銃弾に斃れるのを望みながら、1887年の
初めタイラーがいるという知らせを受けてリードヴィレ
に帰って来た。

警察と協力して町中を捜索している間に、ドックは待
ち伏せを受けて、馬を走らせている時頭から帽子をふっ
とばされた。これは、タイラーとその仲間の仕業に相違
ないと思ったので、その頃アスペン³⁵⁾に三度目の妻君と
暮らしていたアープに連絡を取ったのである。これは、
ドックがどうしても助けが必要と考えての処置だったの
か、或いは唯単に裁判になった時アープに証言をして貰
いたいと思っただけのことなのかよく解らない。

二人のガンマンが、デンバーの西、コロラドの新しい
町グレンウッド・スプリングへ向った時、昔を思い出し
て無量の感慨だったに違いない。アープとホリデーはグ
レンウッド・スプリング行の駅馬車に乗った。ドックは
馬車の自分の席を或る「酒場女」³⁶⁾に譲って、馭者台に
乗った。この処置は、彼の騎士道精神から来たものであ
ろうが、ドックは肺炎にかかっていたし、又タイラーが
背後から襲いかかって来たときのことを考えると、明ら
かに2人に取っては不利であった。

彼の手紙には、ドックとアープとがタイラーともう1
人の男一言い換えるなら、実は弟のマラーンをどう始末

したかについては書き残している。

こうしてグレンウッド・スプリング北方の丘に、ドッ
クとアープのお蔭で再び開拓者の正義がプレゼントされ
ることになったのである。しかしドックは終焉の地を求
めて、例の「復讐の小路」へと馬を走らせたのである。

ドックはその年5月にグレンウッド・スプリングへ帰
って来て、11月まで住んでいた。この数カ月の間に、彼
は友人も出来たし、町の人々には好意をもって迎えられ
た。彼と知り合った人々は皆、彼が礼儀正しい、友情に
厚い人だと言った。しかし彼の心の中は、又別の違った
生活を夢見ていたのである。その中には従妹のマッチイ
と暖い太陽に溢れたジョージアの風物があつた。

当時のグレンウッドの新聞は、現在コロラド州立歴史
協会で見ることができるが、彼の死亡の報知を次の如く
載せている。「J. A (原文のまま) ホリデーの死去 (と
いう見出しで) 1887年11月8日火曜日午前10時頃コロラ
ド州グレンウッド・スプリングにおいて、肺結核により
死去せり」と。

そしてドックの生涯について少々不正確な評価をした
後、次の様に報道している。

「過去57日の間に彼はベッドから、唯2回きりしか起
きて来なかった。そして過去2週間の間はうわ言ばかり
言っていたし、死に先立つ24時間は何も言わなかった」。

彼はカトリック教会で洗礼を受けたのであるが、エ
ド・ドーネー神父が留守だったので、W. S. ルドルフ師
が告別の辞を述べた。遺体は彼等の最後の憩いの場所で



図 5

1871年にカンサスシティで撮影した拳銃使い達の古い写真で、カンサスのダッチシティ
のグループである。前列右よりニール・ブラウン、マクニール、ウィアット・アープ、
C. パセット、後列右よりバット・マスターソン、リューク・ショート、W. H. ハリス

あるリンウッド共同墓地に友人多数立会の下に埋葬された。時に11月8日午後4時であった。ドックが沢山の欠点を持っていたことは誰も否定しない。けれども我々の中に我こそは欠点のない人間だと言える人があるだろうか、又それが欠点だと誰が判断出来るのか。

彼には親類縁者の中で1人だけ便りをする人があった。それはジョージア州アトランタの慈善団の一員に加わっていた従妹である。いずれ彼女はドックが死亡した知らせを受けるに違いない。そして、それまで彼が西部で生きていたことを親せきの人々に話すことだろう。そこには年老いた父や母が未だ元気でいたかも知れない。彼等は皆、ドックの臨終の床で親切的な温い手が自分の息子の上にさしのべられ、又彼の遺体がキリスト教徒として恥かしからぬ埋葬式により葬られたことを知って、神に感謝するに違いない。

「ウイスキーを一杯頼む」というのが、ドックの最後の言葉だった。それを一気に呑みほしてから、部屋の中を見廻して「こいつは変だぞ」と言った。そうしてジョン・ヘンリー・ホリデーはその波瀾に満ちた生涯を終えたのであった。

公平な立場から言えば、我々は当時の医療事情や西部開拓者の荒々しい生活条件などと関連させて、ドックの生涯を物語らなければならないと思う。彼が深い悲しみを背負っていたことは明らかである。その苦悩を、彼は不幸な人を喰い物にしたり、社会に対して唯犯罪や殺人だけしかできないような好ましからざる人物に、はけ口を求めていったのである。ドックや彼の仲間は当時の西部開拓者にとって、守り神だったと言えるかも知れない。

ドックの永遠の眠りに就く場所の近くに、もう一つの墓碑が立っていて、その赤い花崗岩には一羽の平和の鳩が彫ってある。しかもその鳩には首が無く、まわりには45口径銃弾の跡が一杯ついている。これは恐らくドックの墓碑を見に来て、感動したガンマン達がやったことに違いない。この様に、ドックは自分の墓碑に自分自身の終末を書き込むことになったのである。

原筆者のあとがき

ジョージア州史跡委員会事務局長マリー・ジョエット夫人ならびにアトランタ市歴史協会々長フランク・リン・ガレット氏のご援助に謝意を表する。

又ドック・ホリデーの生涯を写真入私家版で刊行されたグレン・B・ボイヤー氏のご協力に感謝する。なお、ホリデーの墓碑と生家以外の写真は、オクラホマ大学図書館の西部開拓史コレクションから借用したものである。

〔後 記〕

はじめにご紹介したように、この報告書をまとめたのは、現在ジョージア州のアトランタ市で開業している歯科医師のジョセフ・W・ルーパー (Joseph W. Looper, D.D.S.) 博士である。

註 訳

- 1) バルチモア歯科医学校 Baltimore College of Dental Surgery は1839年にホレース・H・ハイドン (Horace H. Haydon) によって創立されたもので、歯科医学校では世界最初のものである。修業年限は2年で、1841年初めての卒業生は2名、その後10年間の卒業生も毎年10名を越えることはなかった様である。(榊原悠紀田郎：歯科医学史講義要旨1972年版, p. 105~6)
- 2) ギャンブラー gambler 日本流に言えば賭博打ち或いは博徒とも言うか、トランプ賭博で生活費を稼ぐ連中である。
- 3) 1フィートは約30センチに当るので、1000フィートは300米余になる。
- 4) gunfighter, 拳銃使い、場合によれば殺し屋を意味する場合もある。
- 5) Family Bible, 家族の誕生、結婚、死亡などを記入する余白のある大型の聖書である。
- 7) Sherman, William Tecumseh (1820~91) 南北戦争当時、北軍の將軍。
- 8) 同題名でミッチェルの有名な小説があるが、それはここに由来する。
- 9) 5 rural lots. 西部で当時行われた土地の区画であろう。1区画がどれ位の広さか未詳である。
- 10) Pecan. ヒッコリーの一種である。従って製材業を営んだものと思われる。
- 11) 約178センチ。
- 12) shotgun. ショットガンは散弾銃である。
- 13) dental convention は歯科会議であるが、内容は現在の研修会の様なものである。
- 14) 1872年にはじまり、その翌年には頂点に達した恐慌は未曾有の規模のものであり、失業者300万、破産件数47000にのぼったが、最も顕著であったのは、小企業が大企業に駆逐され、資本の集中が促進されたという事実であった(岩波世界歴史 22, p. 249)。
- 15) グリフィンの町名。
- 16) テキサス州の首都。
- 17) 西部開拓者は農業、牧場などを営む者には真面目な家族もあったが、単独でやって来た者の多くは、東部の喰いつめ者か東部で犯罪を犯して逃亡して来た者であった。又荒々しい環境の生

- 活は、人間の気質も荒々しいものにした。
- 18) 笑気ガスが痛みをなくすのを、アメリカ東部コネチカット州ハート・フォードの歯科医師ホレース・ウエルズが思い付いたのは、1844年のことである。続いてウェールズの研究を受けたやはり歯科医師モルトンがエーテルによる麻酔の実験に成功したのが1846年であり、局所麻酔にモルヒネを皮下注射して痛みを和らげる方法が、エジンバラのアレクサンダー・ウッドによって考案されたのが1853年のことである。更にコカインを麻酔に用いたのは1860年のことである。しかし、何れの麻酔も副作用が強く、開業医が日常の臨床に麻酔を用いる様になったのは、1904年の塩酸プロカインの発明を待たねばならなかった。従ってドックが歯科診療を行った頃は未だ麻酔が殆んど実用されておらず、現在から見れば幼稚な段階にあった。患者は痛みに堪えかねて、荒っぽい西部では歯科医師との間に紛争が断えなかったものと思われる。
 - 19) deputy united states marshal. マーシャルは正確に言えば裁判所執行官であるが、任務はシェリフと同じであるから、解りやすく保安官としておく。
 - 20) 大鼻の由来はよく解らないが、彼女はこの頃ドックの情婦であったらしい。
 - 21) アリゾナ州南東隅、メキシコとの国境線近くにある小さな町で、当時は銀鉱を多量に産出し、この所有をめぐるメキシコとの間に度々紛争があった。
 - 22) 国境問題でメキシコとの間に紛争が断えずあったが、史上有名な国境線というのはよく解らない。
 - 23) “Who’s Who” 「W-W- 名士録」と言い、1849年英国の A & C Black 会社から創刊され現在では年鑑になっている。アメリカの Who’s Who は1899年の創刊で、隔年発行されている。
 - 24) detectire. 探索係巡査とでも言うか、各地区の保安官との関係がどうなっていたのか、当時の警察制度について資料が乏しくよく解らない。ご教示が得られれば幸いである。
 - 25) メートルに換算すると、約 178 センチ。
 - 26) 約 68 キロ。
 - 27) Marshal. 正しくは「裁判所執行官」であるが、任務は Sheriff と同じであるから、保安官としておく。
 - 28) よく解らないがアリゾナ東南隅に近い所にコチーズヘッド cochise head という山があるから、この辺りであろうか。
 - 29) コロラド州中央部南寄りの山中に源を発し、ガニソンからグランド・ジャンクションの辺りでコロラド河に合流する。
 - 30) Tinidad. 未詳。
 - 31) Leadville. コロラド州中央部、ロッキー山脈の中にある町。デンバーに近い。
 - 32) Faro. 親が銀行になって行う一種の賭けトランプ。
 - 33) 約 3.5 リットル。
 - 34) 修道院の尼僧になったことだろう。
 - 35) Aspen. コロラド州グレンウッド・スプリングからローアリング川を遡った処にある山中の小さな町。
 - 36) fallen dove, 仮に「酒場女」と訳しておく。西部の街を流れる女性のことであろうか。